

高森町議会だより

PARLIAMENTARY INFORMATION

21年

令和元年8月発行
No.74
6月定例会



新議長・副議長あいさつ	2
6月定例会	3
質疑応答	5
町政を問う(一般質問)	7
常任委員会報告	10
臨時会	11

七夕まつりのヤマメのつかみ取り大会

正・副議長就任あいさつ

皆様と共に

高森町議会議長 後藤 三治



改選後、5月の臨時会におきまして、議員各位のご推薦により議長に就任いたしました。
私の議員としての理念は「皆様の声を町づくりへ！」であります。

この思いは議長に就任しても変わることばございません。

議員各位にも、選挙戦でそれぞれが有権者に約束した公約を、4年間で達成できるよう自己研鑽に努めて頂くようお願いしたところであります。

さて、平成28年に発生した「熊本地震」から3年4カ月が経ち、日常の生活も災害前に戻りつつありますが、道路や鉄道等の復旧・復興にはもう暫く時間がかかりそうです。更に創造的復旧・復興を臨む私達といたしましては、沢山の問題を一つひとつクリアしなければなりません。皆さんの考えや思いをお聞かせ頂き、これからの高森の町づくりを皆様と共に進めていきたいと考えております。

町民皆様のご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

町民と共にある

議会を目指して

高森町議会副議長 牛嶋 津世志



5月の臨時会で、副議長に選任されました。
諸先輩議員の皆さんがおられる中で、選任ということは責務の重さに身が引き締まる思いです。

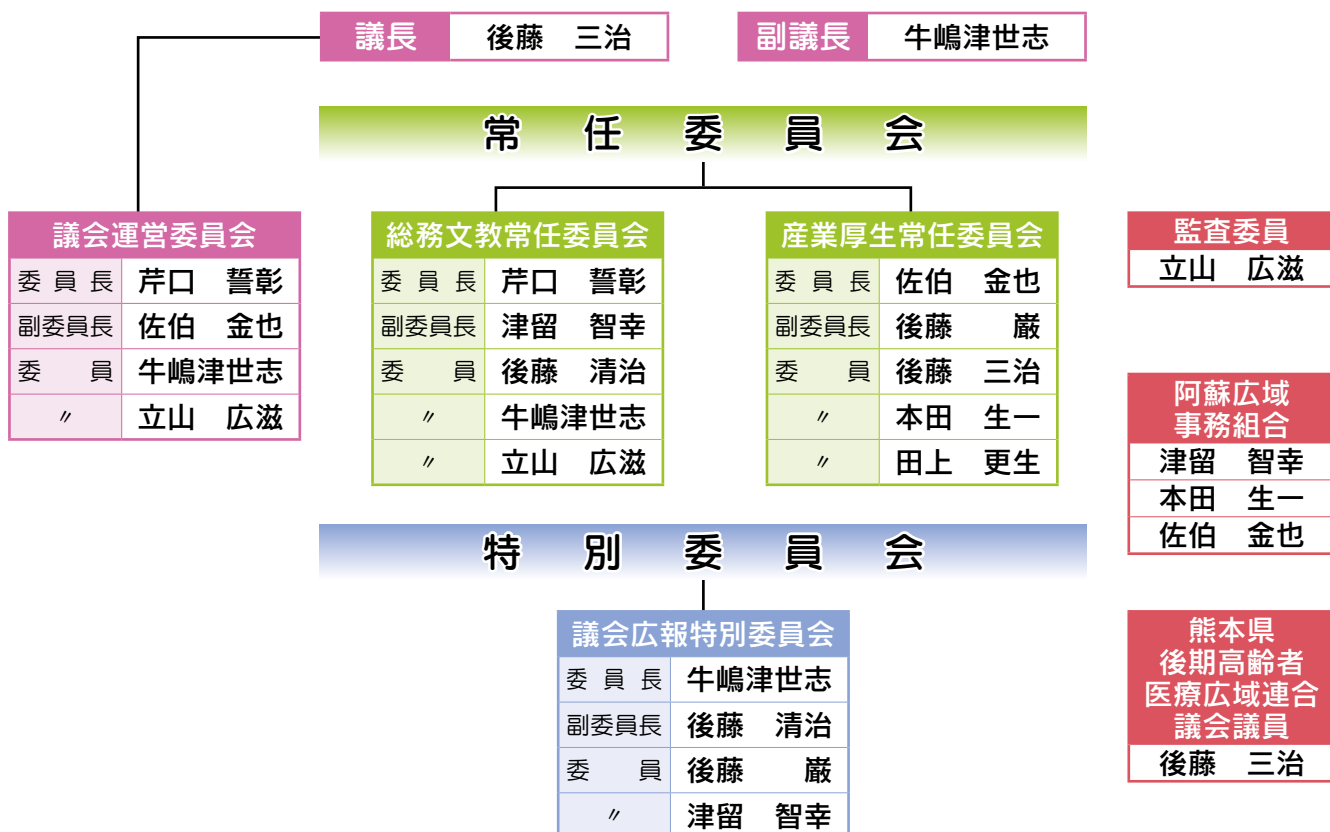
熊本地震の復興も少しずつ進む中、副議長としての役割は町民の声や実情を吸収、それを持って行政・議会に提案して、よりよい町政を進める援護をする事だと思います。

少子高齢の進む中、いかに町民人口を維持していくか、一人でも多く移住してくれるような町づくりの応援団として、活動していきたいと思っております。
人口減に反比例して、高齢人口は増えて行くばかりで、今後は福祉対策に大きな負担がかかることとなります。

地方議員のなり手不足の中、若い人たちが政治に興味を持ち、若い議員が増えるような議会をめざしていきたいと思っておりますので、なにとぞご指導、ご鞭撻を心よりお願い致します。

議会構成表

令和元年5月8日現在



6月 定例会



令和元年 第2回定例会は、6月20日から28日までの9日間開催され、同意1件、報告1件、認定1件、条例5件、予算4件、その他3件を審議し、原案のとおり可決しました。

▲ 開会された6月定例会（初日）

一般会計補正予算

4億4,211万5千円を追加

予算総額 49億6,201万6千円

国庫・県費補助活用事業

事業名	概 要	事業費
プレミアム付商品券事業	令和元年10月の消費増税で消費者に与える影響を緩和するとともに、地域における消費喚起を下支えするため、低所得者・子育て世帯向けのプレミアム付商品券を発行。 ①低所得者（住民税非課税者） ②子育て世帯（3歳未満の子どもの数に応じて） 1人につき、2万5千円分の商品券を2万円で販売。	事業費 11,085千円 国庫補助 11,085千円
攻めの園芸生産対策事業	地域の担い手となる農家組合が行う小規模土地基盤整備、機械導入等に対して支援。 ①品質・生産力向上・コスト削減の最適化のための支援 ②気象災害に強い産地づくりのための支援（気象災害対策）	事業費 9,149千円 県補助 3,678千円
産地パワーアップ事業（生産支援事業）	地域一丸となった戦略に基づいて、産地を支え担い手が行う地域全体の収益力強化に向けた取り組みを支援。 ①コスト削減に向けた高性能な農業機械のリース導入・取得 ②雨よけハウス等、高付加価値化に必要な生産資材の導入 ③果樹の競争力のある品種について、同一品種での改植等	事業費 28,241千円 県補助 12,418千円
中山間農業モデル地区支援事業	中山間地域の農業に様々な課題を解決するため、基盤整備や施設導入等の支援を行う。 ①簡易な基盤整備 ②施設導入（簡易ハウスや機械等） ③ビジョン策定に係る経費 ・平成29年度から3年間の時限事業 ・県のモデル地区として草部南部地区が認定	事業費 18,500千円 県・町補助 7,500千円
横山第2地区・河地地区用水路整備事業	横山第2地区（草部）及び河地地区（野尻）の基幹用水路を整備し、水管理の省力化・農業用水の安定供給を図ることにより、地区内農業の安定的な経営に取り組む。 ・地域内の老朽化した用水路の改修を行い、水管理の省力化・農業用水の安定供給を図ることにより、主要作物である水稻に加え、飼料作物の作付面積拡大を図り、地区内農業の安定的な経営に取り組む。	事業費 27,500千円 補助金 18,630千円 辺地債 8,800千円

単独・その他の事業

事業名	概 要	事業費
南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発実施設計	くまもとアートポリスプロジェクトにより策定した「南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グラウンドデザイン」の詳細設計に着手。 ・建築設計（床面積600㎡）及び外構設計一式	事業費 47,150千円 （過疎債）
高森町総合計画策定業務委託	町長政策集と他計画を整合した、行政運営の総合的な指針となる「高森町総合計画（4力年）」を策定。 「高森町長政策集」に掲げられている政策等の確実な執行を基本ベースに、各課・局が所管し行政運営を行っている諸計画との整合性を持つ、「新高森町総合計画（R1年度～R4年度）」を策定する。	事業費 3,000千円 （一般財源）
南阿蘇鉄道新駅整備基本設計	新たな観光客誘致策として、南阿蘇鉄道の新駅設置に係る基本設計を実施。 ・南阿蘇鉄道の熊本地震からの創造的復興を図り、将来にわたり持続可能な鉄道とするため「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通活性化協議会」において、公共交通網形成計画を策定。その中で、南阿蘇地域の新たな観光客誘致策として、新駅設置に着手することとしている。	事業費 6,996千円 （一般財源）
観光交流センター改修工事	観光交流センター（食のスペース）を、高森町商工会事務所とするため改修。 ・観光交流センターは、町中心部の商店街に位置し、商工業者の利便性に優れているが、今回の改修箇所は年に数回のイベント時しか使われておらず、その有効活用のためにも施設を整備し、商工会事務所として中小企業の育成や企業の促進を図る。	事業費 15,000千円 （過疎債）
高森町道路事業整備計画	高森町内の交通現況や熊本地震時の状況を踏まえ、道路ネットワークの課題を整理し、整備が必要な路線の検討を行う。	事業費 7,000千円 （一般財源）
高森町管内道路網再編計画（国土強靱化地域計画）	急激な社会情勢の変化・交通情勢の変化に対し総合的評価を行い、高森町管内の道路網見直しについて検討を行う。	事業費 7,000千円 （一般財源）

ふるさと納税活用事業

事業名	内 容	事業費
ロアッソ熊本ジュニアユース阿蘇運営補助金及びロアッソ熊本と連携した高森町農産物PR	「ロアッソ熊本ジュニアユース阿蘇」の活動を通じた阿蘇地域への交流人口を拡大する活動を展開及び初の本町出身ユース選手昇格を契機にプロ球団の発信力をフル活用した町農産物のPR	1,955千円
第2回くまもと国際マンガCAMP	マンガを通じた「熊本・阿蘇・高森」情報の世界発信の活動を展開	5,565千円
大隈塾U-18 in 阿蘇開催補助金	早稲田大学生が主催する「大隈塾」による、都市部と変わらないハイクオリティのキャリア教育を実施	1,300千円
ゴミ収集所整備事業補助金	今年度に限り補助率を1/2から3/4に高上げて実施（昨年度の街路灯補助と同スキーム）	1,500千円
畜産振興補助金	畜産振興を図るため、対象者に補助金を交付	2,000千円
「高森にわか」国選択無形民俗文化財登録イベント助成金	風鎮祭で「台本コンクール」等のイベントを実施	500千円
高森中学校吹奏楽部楽器購入	ハンドクラフトピッコロ・コンサートウッドブロック	292千円
高SPO補助金	社会人バスケットチームユニフォーム購入	312千円

ふるさと応援寄付金の状況

基金残高（H30末）34,993千円 ⇒ R1活用額 15,135千円

令和元年度末基金残高予定 19,858千円

令和元年6月定例会 主な質疑応答

議案第34・35号

辺地に係る公共的施設の整備計画について

質

〔佐伯金也議員〕

永野原辺地及び野尻辺地に係る公共的施設の整備計画について、水田及び飼料作物となっているが、水田面積を教えていただきたい。

答

〔農林政策課長〕

横山第2地区の受益面積については、45・5ha、河地地区については5・2haである。



議案第38号

高森町いじめ問題対策連絡協議会等条例の制定について

質

〔後藤蔵議員〕

いじめ問題対策連絡協議会が立ち上がるということは、いじめに対する抑止力になっていくと思われる。この協議会自体の開催が、定期的に行われるものか、臨時的に行われるものかお尋ねしたい。

答

〔教育長〕

今回の条例の制定には、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対策連絡委員会、再調査委員会の3つがあり、詳細はこれから検討すべきところである。学校としては、2回いじめ強化月間を設けているので、その時期に合わせて開催できればと考えている。

議案第42号

令和元年度高森町一般会計補正予算について

質

〔津留智幸議員〕

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発実施設計について、設計、施工を含めて数億円のプロジェクトとなるが明確な目的・適正な数値目標の設定利害関係者の共有があげられる。

南阿蘇鉄道の安定的な経営、考えを聞かせて頂きたい。

答

〔町長〕

本プロジェクトは前議会で承認を得ているものである。アートボリス構想・南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画ともリンクしたものの、国・県、南阿蘇村、高森町で組織する法人が出来るわけで、南阿蘇鉄道に運行を委託する予定である。

観光客入込客数については南阿蘇全体で600万人から700万人へ増加することを想定している。高森町としては、「点」ではなく「面」で整備を行っていく。

質

〔後藤蔵議員〕

一般管理費の交際費が、なぜ減額となっているのか。

答

〔総務課長〕

香典を線香に、交際費を役務費に組み替え町長の意向により、無駄な交際費がないよう全体的に見直しを行っている。

答

〔町長〕

新しい形にしたいと思ひ提案した。会議参加代など本来、交際費で賄うものの不明なものもあつたのでまずは減額して、各課で必要な分は対応してもらふ。

質 **〔立山広滋議員〕**
年間の道路橋梁維持費がどれ

くらいかかっているのか。

答 **〔建設課長〕**

年間1億円ほどかかっている。
今後は1億5千万円から2億円ほど
かかっていくと考えている。

質 **〔牛嶋津世志議員〕**

町長車の購入について、高森
町の首長が乗る車が、中古車でいい
のか。

答 **〔総務課長〕**

町長が、約50団体の要職に就
き職務が増えることで、運転に支障
をきたす可能性があることから、町長
車の購入及び運転手の委託料を計上
した。

答 **〔町長〕**

これまで、自家用車で自ら運
転してきた。さまざまな団体の要職
に就いたことから、今後多忙が予想
されるため運転手の委託料を上げた。
公用車は新車じゃないといけない

という根拠はない。今後、単費で公
用車を買わないといけない時の前例
をしたい。

質 **〔佐伯金也議員〕**

ふるさと納税は、年々寄付額
が減ってきている中、返礼品に頼っ
ただけではなく、施策について
募る必要があるのではないか。今後
の見込みや戦略等について。

答 **〔町長〕**

体験型の返礼品のところは、
確かに寄付額も増えているが、それ
と同時に経費もかかっている。極力
経費等も抑えながらやってきているが、
限界が見えてきている状態。
今年度から「ガバメントクラウド
ファンディング」や「企業版ふるさと
納税」にも取り組んで行きたいと
思う。

※ガバメントクラウドファンディング

自治体が事業資金の用途を限定し、
賛同者から寄付金を募集する仕組み。

特別会計補正予算

●介護保険特別会計

消費税増税に伴う低所得者保険料の軽減措置や介護予防生活支援サービス事業費として
173万9千円を追加 予算総額 10億1,879万4千円

●簡易水道事業特別会計

過疎債と簡易水道事業債間の起債制度上の限度額の調整

予算総額 1億7,506万4千円（予算の増減なし）

●鉄道経営対策事業基金特別会計

老朽化した枕木を木製からコンクリート製に変更するための経費として

734万2千円を追加 予算総額 1,225万3千円

町道の路線認定

復旧復興防災道路として整備している道路の認定。

- 路線名 西原・日ノ尾峠線（総延長 2,335.6m）



県道津留・柳線について

山都町との期成会の考えは

町 長 関係者の協力が得られれば検討したい

質 問 県道津留・柳線の改良計画について伺う。

建設課長 東学園から津留方
向の区間350m

の用地構造物買収費及び
村山・高尾野線との接続
部分のヘアピンカーブの
改修、小村地区入り口付
近600mの舗装工事を
実施予定。

質 問 本線は、津留から
山都町埋立の国道

325号までの改良が出
来てこそ道路として機能
を果たすことになる。山
都町との連携や期成会の
立ち上げについての考え
は。

町 長 関係者の協力が得
られるのであれば
前向きに検討したい。

質 問 町道男原線につい
て、年次計画で改

良工事が実施されてきた
が、ここ数年工事が行わ

れていない。今後の取り
組みについて伺う。

建設課長 22年度から26年度
迄、辺地計画で整

備予定であったが用地境
界確認が出来ず中止して
いる。30年度に地籍調査
が終了しているので計画
が達成出来るようにした
い。

質 問 今後の道路政策に
ついて伺う。

町 長 中九州横断道路や
国道57号線の北回

り道路の完成により、人
物の流れが激変すること
から優先的に整備が必要
なルートの選定を行い実
施することが大事である。

町道についても、人口減
少が進み税収も減ってい
く中で維持、更新する予
算が莫大なものになるこ
とから、真に必要なもの
を行っていく必要がある。



南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発

駅周辺再開発の方向性は

町 長 デザインよりも機能性がなければならない

質 問 高森駅周辺再開発
はどの範囲でどう
変えていくのか。

推進課長 町有地を対象地に
しており民有地は

計画外である。高森駅の
建て替えによる駅舎とし
ての機能強化、交流施設
を別棟で整備する。駐車
場は約60台のスペースを
確保し、災害時は車中避
難に対応するように計画
している。

質 問 住民や観光客が使
いやすい交通形態

を整備する必要がある。
免許返納など高齢化が進
む現状も考えた二次交通
の整備計画をしておくべ
きでは。

推進課長 全線復旧を見据え
二次交通の交通ア

クセス、地域住民の便利
性を図るために、南阿蘇
鉄道を幹線とした移動を
バスやタクシーが補完す

るネットワーク構築をし
ていく。町民バスや乗り
合いタクシーの時刻ダイ
ヤを南阿蘇鉄道のダイヤ
に合わせて調整をし、「高
森町公共交通会議」にお
いて協議していく。

質 問 本事業は2期8年
の草村町政におい

て創造的復興を目指す県
とのタイアップ事業であ
る。どのような高森駅にし
たいかを問う。

町 長 観光や防災施設と
いった町づくり

に資すべき施設であること。
二次交通の拠点として観
光客や利用者の移動を担
保すること。面的な整備
であり機能性を持たねば
ならないこと。交流人口
の増加、関係人口の創出
する仕組み作り、今後の
地方創生の動きについて
対応する施設であるべき
と考える。

田上 更生 議員



高森駅周辺再開発設計着工

商工会館の移転先は

町 長 ▶ 高森観光交流センターへ移転

質 問 高森駅周辺再開発の設計着工となるが、事業予算を約8億円としている。設計の段階でふえることはないのか。

推 進 課 長 最大で8億円を試算している。実施設計の中で、安全運行を第一とし、駅機能・利便性・観光拠点・防災機能の施設を精査し、県の建築課より指導を受け、コスト削減を実施する。

質 問 観光交流センターの改修工費が、補正予算で上げている。高森町商工会が入居するためとあるが、この計画はいつどの様な経緯で決まったのか。

町 長 昨年7月に商工会会長事務局、担当課で協議をした。改修内容は、商工会の希望に沿うように協議を進め、今回改修に係る予算案を計上した。

質 問 観光交流センター設立時の使用目的は、2つの事務所が入居して問題ないのか、観光交流に支障は。

推 進 課 長 平成18年4月に開館して、計画では湧水トンネル公園の観光客の入り込み増を図るとともに、中心部へ誘導する手段として整備した。地域住民と観光客が活き活きと行き交う賑わいある空間の創造が計画の目標である。観光協会は、南阿蘇鉄道高森駅再開発に伴い事務所移転に関する要望書が提出されており、高森駅周辺への移転を検討している。

質 問 現在観光協会に管理委託がされているが、今後どのような処理がなされるのか。

推 進 課 長 観光協会移転後は施設の管理運営のあり方について検討を行っていく。

その他の一般質問

後藤 巖 議員

- 移住定住の促進
- 阿蘇郡市における自治体間の取り組み（圏域構想）

佐伯 金也 議員

- 町道の美化作業
- 町道の見直し
- 中川原団地の今後

田上 更生 議員

- 高齢者対策

牛嶋 津世志 議員

- 福祉車輛（リフト付き）の導入

意見書の採択

「新たな過疎対策法の制定を求める意見書」

過疎地域における生活環境の整備や産業の振興を目的に、昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」の制定以来、4次にわたる特別措置法の制定により、一定の成果を上げたところだが、近年の大規模災害や地球温暖化防止対策、国土・自然環境の保全、多面的・公益的機能を継続させるために、現行の法律が令和3年3月末をもって失効することから「新たな過疎対策法の制定を求める意見書」を国の各機関・大臣へ要望書を提出した。

常任委員会報告

総務文教

委員会に付託された案件「高森町過疎地域自立促進計画の変更」

「高森町辺地に係る公共的施設の整備計画の変更」、「高森町いじめ問題対策連絡協議会等条例」及び「高森町一般会計補正予算」、「高森町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算」については、担当者から詳細に説明を求め審議した結果、可とすることに決定した。

【主な質問事項】

◎高森町いじめ問題対策連絡協議会等条例について

質 各委員会の役割と各委員会の委員の重複委嘱は可能か。

答

○連絡協議会はいじめ防止のための連絡調整及び意見交換

○対策委員会は重大事故等が起った場合に教育委員会が設置する諮問機関(第三者委員会)

○再調査委員会は対策委員会の調査結果について、町長が再調査

をゆだねる諮問委員会

基本的には重複しないが条例では、兼職を認める規定を設けている。

◎高森町一般会計補正予算について

質 「くまもとアートポリスプロジェクト」事業が実施された件数及び阿蘇地域での件数について伺う。

答 1990年の熊本北警察署を最初にこれまで111件行われており、阿蘇地域では草地畜産研究所、阿蘇山頂のトイレ、小国町の橋梁などがあり、近年では郡内の災害公営住宅の事例がある。

◎高森町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算について

質 枕木を木製からコンクリート製に変えることで、ショックや耐震性に問題はないか。

答 走行に問題なく、耐久性があり半永久的に使用できる。

産業厚生

令和元年第2回、6月定例会で、産業厚生常任委員会に付託された議案の審議・審査の結果を報告いたします。

6月24日、月曜日、午前10時から産業厚生常任委員会に付託された議案

●議案第36号 町道の路線の認定について

●議案第40号 高森町介護保険条例の一部改正について

●議案第42号 令和元年度高森町一般会計補正予算について

●議案第43号 令和元年度高森町介護保険特別会計補正予算について

●議案第44号 令和元年度高森町簡易水道事業特別会計補正予算について

以上5議案を、農林政策課、建設課、住民福祉課、健康推進課の順で、課長、審議員、課長補佐、係長出席のもと、慎重に審議した結果、全委員、異議なく可とするに決定した。

●農林政策課については、農産物等保護のため、有害鳥獣対策を検討する。

●建設課については、町道の見直しのため、再編計画等で十分検討していく。

●健康推進課については、健康保険税軽減のため、病気重度化予防の点から、住民健診の受診率向上の工夫に取り組んで行く。

制度の多様化によって多重労働化している介護、健康推進の担当職員の勤務時間軽減対策を早急に進め、パソコンなどの機器補充を進める。

●住民福祉課については、色見保育園などの公立保育園民営化協議に対して、関係地域との対話、説明会等を進めて行くことを提起した。

今後、住民の命・生活を守って行くために、勉強会等を開いて行くことを確認した。

議 事 内 容

○議会構成の決定

詳細については、2ページに掲載のとおり。

○工事請負契約の締結について

高森防災公園造成工事の契約締結。

元畜協跡地（敷地面積4,963㎡）に、管理棟・防災倉庫・防災用東屋・かまど・ベンチ・マンホールトイレ・デジタルサイネージ・ソーラー照明機等の設備を設置する。

完成は、来年2月末の予定。

○高森町高齢者温泉入浴料の助成に関する条例を制定

70歳以上の高齢者に対し、高森町及び南阿蘇村の一部の温泉施設を利用し、健康増進を図ることを目的に、入浴料の助成を行う。利用できる施設は、「月廻り温泉館」「阿蘇白水温泉瑠璃」「南阿蘇久木野温泉四季の森」「南阿蘇村総合福祉温泉センターウィナス」の4温泉施設。

一般会計補正予算の主なもの

学校ICT環境整備促進実証研究事業

遠隔教育システム導入実証研究事業

文部科学省の実証事業（継続採択で2年目）を活用し、遠隔教育等を実施。

【目的】

- 遠隔教育システム（テレビ会議システム）を活用し、町外の学校や外部専門機関と連携・交流することにより、専門的な知識や技能、様々な経験や考えをもった人との出会いを通して、児童生徒の学びを、より主体的で深い学びにつなげていく取組を推進する。

事業費	委託料	町負担分
4,464千円	4,464千円	0円



高齢者入浴料一部助成事業

高齢者入浴料一部助成事業

高森温泉館の休館に伴い、町内在住高齢者の入浴料を一部助成。

【目的】

- 高齢者福祉の一環として、高齢者が「住み慣れた地域で健康に生活できる施策」の推進を図り、高齢者の外出機会の創出、健康維持を目的として実施するもの。

事業費	利用者負担額	町負担分
3,150千円	1,350千円	1,800千円



正副議長研修及び国への要望報告

議長 後藤 三治

統一地方選後、初の全国町村議長・副議長研修及び国への要望を行ったので、概要について報告します。

【1日目】 5月28日

○町村議長・副議長研修

会場：東京国際フォーラムホール

町村議会特別表彰を受賞された、長野県喬木村議会の「小規模議会の在り方を求めて」夜間・休日議会の挑戦」報告を受けた。

喬木村は、長野県の南部に位置し、人口は、

6,364人。議員定数は12名。平成29年6月執行の村議会議員一般選挙では定数割れの状況で、公示前によりやく12名の候補者が確保でき無投票の結果であった。要因としては、議員は一義的に議会活動が優先であり、兼業・副業は議員活動に相応しくないとの方考え方・議員の多くが地区推薦により輩出されてきたが、人口の減少で2つの地域で候補者が立てなくなってきた。候補者が出せなくなった地域から再び候補者が出選されることが困難な状況である。この問題の解消策として、夜間・休日議会への取り組みを行った。このことにより、多様な人材の確保の一つとして、兼業議員が活動しやすい環境整備（夜間・休日議会）が出来れば誰でも議員に

なれる。また、他業種のスキルを持った兼業議員だからこそ行政の課題が見えるのでは、と話された。

話を聞いて思ったことは、本当に、人口規模や議会構成、そして抱えている問題が類似している村だなと思う反面、夜間・休日議会にこだわることなく、本町にあった議会改革を議員間で考えていきたいと感じた。

【2日目】 5月29日

○県関係国会議員への要望

会場：ホテルグランドアーク半蔵門

熊本県町村議長会が作成した要望書を提出した。阿蘇郡関係は、次のとおり。

①「平成28年熊本地震に関する国道・鉄道の早期復旧」

●国道57号の早期開通

●国道57号北側ルート of 早期完成

●国道325号阿蘇大橋の早期完成と開通

②「阿蘇地域における道路網の整備促進」

●主要地方道矢部阿蘇公園線未共用区間の早期着工

●県道主要地方道熊本高森線の早期災害復旧及び開通

●県道堂園小森線（206号）の道路改良の早期完成

議会広報特別委員会

議長 後藤 三治（発行責任者）

委員長 牛嶋津世志 委員 津留 智幸

副委員長 後藤 清治 〃 後藤 巖



編集後記

新年号 令和元年の始まり、高森町町議会も新しい議員の皆さんが、選挙で当選されました。

議会広報特別委員会も、委員長、新議員3名を加えてのスタートです。

新感覚での広報誌を作り上げて行きたいと思っていますのでご意見等あれば、よろしくお願い致します。

議会広報特別委員会委員長 牛嶋津世志